

日本気象学会昭和53年秋季大会

東北地方調査研究会

会期：昭和53年11月14日（火），15日（水），16日（木）
会場：宮城県民会館（仙台市国分町3-3-7）

目 次

大会行事予定表	693
会場と宿舎案内図	694
研究発表内容一覧表	695
シンポジウム内容	695
研究発表題目	695~701

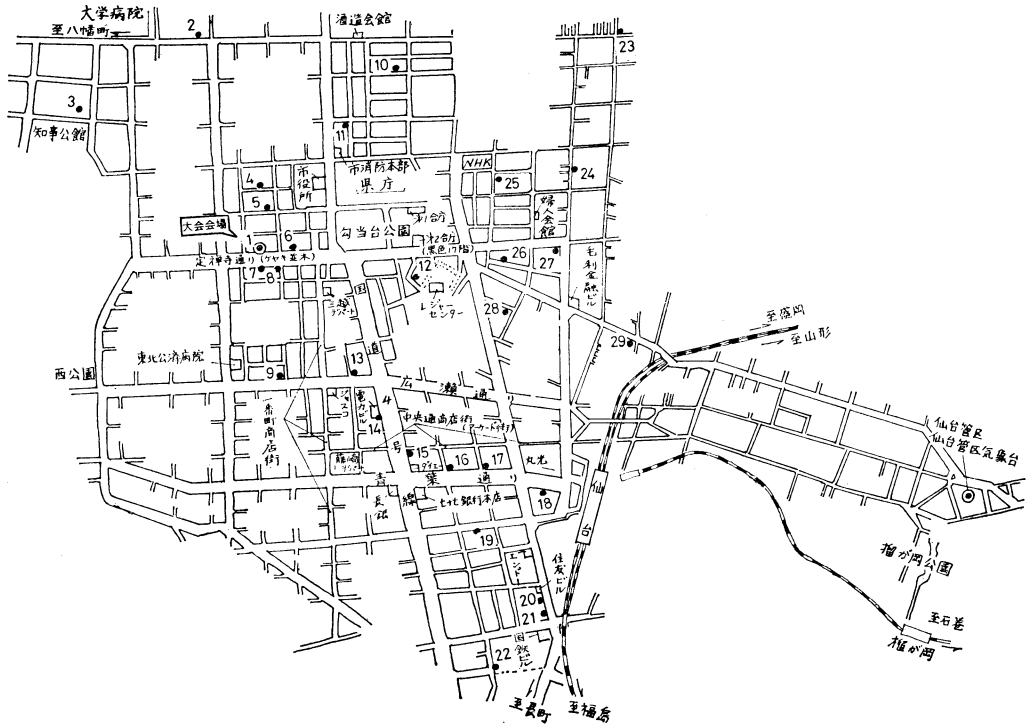
大会行事予定表

1. 会場：宮城県民会館（Tel. 0222-25-8641）
第1会場（6F 第2会議室），第2会場（6F 第3会議室）
第3会場（3F 第1会議室）
2. 会期：11月14日（火），15（水），16（木）
3. 行事

大会（研究発表）（第1，第2，第3会場）	11月14日（火）09：00～12：30
〃	〃 13：30～17：30
大会（研究発表）（第1，第2，第3会場）	11月15日（水）09：00～12：30
理事長あいさつ，日本気象学会奨励金贈呈式（第1会場）	〃 14：00～14：30
シンポジウム（第1会場）	14：45～17：30
懇親会（勾当台会館）	18：00～
大会（研究発表）（第1，第2，第3会場）	11月16日（木）09：00～12：30
〃	〃 13：30～17：00

大会委員長 清水逸郎

昭和53年秋季大会会場・宿舎案内図



1	宮城県民会館	11	仙台ビジネスホテル	21	仙台ロイヤルホテル
2	ホテル木町	12	ホテル仙台プラザ	22	仙台弥生会館
3	仙萩閣	13	ホテル江陽	23	翠風荘
4	仙台都市センター	14	グランドホテル仙台	24	グリーンホテル
5	勾当台会館	15	東京第一ホテル仙台店	25	仙台共済会館
6	ホテル一番町	16	仙台シティホテル	26	プレジデントホテル
7	ニューシティホテル	17	仙台セントラルホテル	27	ホテルメイフラワー仙台
8	ホテル国分町	18	仙台ホテル	28	仙台クラブ
9	ホテルリッチ仙台	19	仙台チサンホテル	29	ホテル花京院
10	みやぎ野会館	20	ホテルサンルート仙台		

大会会場への交通 市営バス

- 仙台駅前乗場（日立ファミリーセンター前＝地図上 No. 16 付近）→県庁市役所前下車。
 - ⑥黒松団地行，⑦瞑想の松循環，⑧七北田，将監団地行，⑨根白石方面，加茂，長命，泉パークタウン行
- 仙台駅前乗場（十字屋前）→定弾寺通市役所前下車。
 - ①北山行
- 翠風荘からは仙台駅前行で県庁市役所前下車。
- ホテル花京院からは交通局前行（市役所経由）で県庁市役所前下車。
- その他の所からは徒歩の方が便利です。

昭和53年秋季大会

(): 講演番号, — —: 座長

		第1会場	第2会場	第3会場
14日 (火)	09:00~12:30	気候 (101~108) —関根勇八— 高層大気 (109~113) —宮原三郎—	局地循環 (201~210) —酒井 一—	放射 (301~315) —田中正之—
	13:30~17:30	大気大循環・力学(114~127) —松野太郎—	応用気象 (211~222) —木村耕三—	エーロゾル・大気化学 (316~330) —北川信一郎—
15日 (水)	09:00~12:30	総観気象 (128~140) —野口和則—	大気汚染 (223~234) —藤田敏夫—	大気化学・大気電気 ・雲物理 (331~342) —池辺幸正—
	14:00~14:30	理事長あいさつ・日本気象学会奨励金贈呈式		
	14:45~17:30	シンポジウム		
16日 (木)	09:00~12:30	境界層 (141~153) —文字信貴—	中小規模現象 (235~248) —吉崎正憲—	雲物理 (343~356) —桜井兼一—
	13:30~17:00	境界層 (154~167) —近藤純正—	中小規模現象 ・台風・熱帯 (249~260) —丸山健人—	測器 (357~369) —青柳二郎—

注) 大会参加費 会員 500 円, 学生会員 300 円, 一般 1,000 円

シンポジウム「気候モデルとその問題点」

1. 日時 大会第2日 (15日)
2. 会場 第1会場
3. 座長 片山 昭
4. 話題提供
 1. 力学モデル 岸保勘三郎 (東大)
 2. 熱収支モデル 田中正之 (東北大)
 3. 水循環モデル 武田 喬 男 (名大・水圏研)

講演発表者へのお願い

1. スライドのマウントに番号をつけること。
2. スライドの上下を揃え, 分かるようにすること。
3. スライドの標準枚数は6~8枚です。
4. 持ち時間 (約15分) を超過したときは中止していただくことがあります。

研究発表題目

大会第1日(11月14日) 9時00分~12時30分

第1会場 気候

座長 関根 勇 八

101. 広瀬元孝(気研・予報):ベクトル相関による長期予報
102. 荒井 康(気象庁・長期)・矢島栄三(気研・予報):500 mb 超長波偏差パターンの分類
103. 荒井 康(気象庁・長期)・矢島栄三(気研・予報):500 mb 偏差パターンの持続性と類似性
104. 山元龍三郎(京大・理)・星合 誠(愛知学院大・教養):グローバル平均気温変動の解析について
105. 星合 誠(愛知学院大):北半球平均地上気温の最近の変動
106. 木村耕三:気候変動に関連する基礎的な調査
107. 須田滝雄(岐阜大・農):準2年周期振動に及ぼす太陽活動の影響
108. 池田誠也・朝倉 正・能登正之(気象庁・長期):太陽活動の気候と天候に及ぼす影響

高層大気

座長 宮原 三 郎

109. 吉田 淳・廣田 勇(京大・理):日本上空の対流圏および下部成層圏における風の日周期振動
110. 福山 薫(京大・理):ISレーダーによる中層大気の観測(II)
111. 宮原三郎(九大・理):大気潮汐波による平均流加速(3)
112. 田中 浩(名大・水圏研):メソポーズ・パンピング
113. 廣田 勇(京大・理):Nimbus-5 SCR による赤道中間圏 Kelvin 波の解析

第2会場 局地循環

座長 酒井 一

201. 渡辺 明(福島大・地学):Wind Spectrum Analysis からみた関東地域の局地性
202. 工藤敏雄(盛岡地台):岩手県沿岸地方における海霧の侵入距離
203. 新井俊男(福島地台):福島県海陸風について(その1)
204. 酒井 一(仙台管区):仙塩地区海陸風について(第1報, 仙台海陸風)
205. 石川信敬・油川英明・成瀬廉二(北大・低温研):最低気温分布にみる札幌市の都市気候

206. 横山 博(福井地台)・荒川 正一(気象大):スペクトル解析から見た関東地方海陸風
207. 吉門 洋(公資研):海陸風の発生と気圧配置の関係(II)
208. 島貫 陸(東京学芸大)・新牧賢三郎(渋谷区立本町小):海陸風循環におよぼす拡散係数モデルの効果
209. 岸保勲三郎・近藤裕昭(東大・理):海陸風循環に及ぼす乱流拡散の効果
210. 岸保勲三郎・近藤裕昭(東大・理):海陸風循環におけるラグランジュ的な空気の流れについて

第3会場 放射

座長 田中正之

301. 近藤 豊・高木増美・石川晴治(名大・空電研):成層圏エロゾル・オゾンによる太陽光吸収の地球観測
302. 浅井和弘・板部敏和・五十嵐隆(電波研):CO₂レーザ・レーダによる大気中オゾンの測定
303. 田中正元・高村民雄・中島映至(東北大・理):相対湿度に対する aerosols の複素屈折率及び粒径分布の関係について [1]
304. 三田昭吉(名大・理大学院[水圏研]):carbon および hematite を含むエアロゾルの光学的特性
305. 小林隆久(気研・応用):Ångström の混濁係数と粒径分布について
306. 高野精秀(東北大・理):無限長円柱による光の散乱(III)一光線光学による Virtual Amplitude Matrix の導出
307. 高野精秀(東北大・理):無限長円柱による光の散乱(IV)一光線光学近似と電磁波動理論の比較
308. 小澤 博(東京都江東区立砂町中):回転楕円体をした水滴の分光現象 I
309. 荒生公雄(長崎大・教育):混濁大気における太陽周辺光(III)
310. 佐藤隆夫(長崎大):金星の散乱光(II)一次に於ける平面大気と球面大気との比
311. 佐藤隆夫(長崎大):第n次散乱光に於ける位相関数(III)
312. 山内 恭・田中正之(東北大・理):水蒸気近赤外

- 帯の吸収特性 (II)
313. 中澤高典・田中正之(東北大・理): O_2 red band の透過関数
314. 勝守 真(京大・理): 地球古大気の光化学一放射

平衡 (II)

315. 井沢龍夫(気研・台風)・飯坂譲二(日本 IBM): 衛星マイクロ波資料による気温等の分布(序報)

大会第1日(11月14日) 13時30分~17時30分

第1会場 大循環・力学 座長 松野 太郎

114. 近藤洋輝(気象庁・電計): 山を考慮したイニシャルリゼーションについて
115. 増田善信(気研・予報): 大規模な山岳の力学的効果と四次元解析
116. 時岡達志・桜井 徹(気研・予報): フーリエフィルタリングの簡単な計算法
117. 山崎孝治・時岡達志(気研・予報): GCM のための境界層と積雲モデルのテスト (I)
118. 岩嶋樹也(京大・理)・森山 茂(日大・生産工): 火星の大気大循環スペクトルモデル (V)
119. 松田佳久(東大・理): (統) 金星大気の循環一特に四日循環について
120. 戸松喜一(気研・予報): 大気のエネルギー生成と消費について
121. 岸保勘三郎(東大・理): 500 mb 面における超長波の特性について
122. 大井正道・古田英文(大阪教育大): Subtropical Jet Stream の成因についての一考察
123. 大井正道・杉谷康雄(大阪教育大): 帯状流地形性擾乱の孤独波生成について(第10報) — 二層モデル-不安定波動の場合 —
124. 余田成男・廣田 勇(京大・理): Vacillation Model における β 項の影響について
125. 瓜生道也(九大・理): 傾圧不安定に伴うラグランジュ平均運動 (I)
126. 高橋正明・瓜生道也(九大・理): 傾圧不安定に伴うラグランジュ平均運動 (II)
127. 蔵重 清(気研・台風): 傾度風と慣性運動

第2会場 応用気象 座長 木村 耕三

211. 木藤照子・根本 修(気研)・神山恵三(東農工大): 地下道の環境調査について(第2報)
212. 山下邦博(消防研): 燃焼区域周辺の地上風向風速分布の観測結果について
213. 山下邦博(消防研): 火災上昇気流の傾きに関する

一考察

214. 真鍋大覚(九大・工)・志賀正信(長崎海洋台)・佐藤洋子(九大・工): 炭坑内自然発火と地震
215. 真鍋大覚(九大・工)・志賀正信(長崎海洋台)・佐藤洋子(九大・工): 日の出・日の入前後における圏界面の気象光学的特性
216. 高橋浩一郎(気象大): 気候変動と社会変動
217. 元田雄四郎・坂上 務・早川誠而(九大・農): 緩傾斜地における霜害について
218. 山田知充・水津重雄・西村 寛・若浜五郎(北大・低温研): 山岳積雪の分布特性
219. 前野紀一(北大低温研)・西村浩一(気象協会北海道): 流動状態の雪の粘性と熱伝達
220. 高橋修平(北大・低温研): 雪面の Ablation-hollow の発達について
221. 小林禎作(北大・低温研): 「雪華図説」考一つづき
222. 野田 彰(仙台管区): つぼみの重さによる桜開花予想

第3会場 エアロゾル・大気化学

座長 北川 信一郎

316. 岩井邦中(信大・教)・伊藤朋之(気研・物)・小野晃(名大・水圏研): 東京から南極地域までの海洋上でのエアロゾル連続観測について
317. 村上正隆(北大・環境)・孫野長治(北大・理): 降雪によるエアロゾル捕捉率の観測
318. 勝山輝雄・神山恵三(東京工大・環境保護): 大気中 ALKYL BENZENE α -ピネンの高度分布などについて
319. 佐藤公喜(愛知県公害調査センター): エアロゾル粒子の coagulation と大気拡散との関係について
320. 北川信一郎・高橋忠司(埼玉大)・池上三和子・金沢五寿雄・三崎方郎(気研)・中谷 茂(電総研)・関川公成・角田智良・増田純夫・望月 定(東理大・理)・兒島 紘・首藤克彦(東理大・理工):

- 大都市およびその周辺地域におけるエアロゾルの分布と変動の研究(第5報)
321. 小野 晃・岡田菊夫(名大・水圏研): STEM で観た塩化バリウム薄膜上での Sulfate 粒子の反応について
322. 岡田菊夫・小林愛樹智・武田喬男(名大・水圏研): 都市大気中の XSO₄ 粒子濃度と光散乱係数について
323. 孫野長治(北大・理)・村上正隆・平松 親(北大・環境): 降雪による大気中エアロゾル除去作用の二点観測
324. 関川公成・増田純夫・関川俊男(東理大・理): 大気電気伝導度に影響する要素について(第2報)
325. 今井俊男(岩見沢測): 放射性エアロゾルと雲粒(第1報)
326. 今井俊男(岩見沢測)・猪田耕市(北大・工): 日本海北部における各期季節風による自然放射能の変動(第2報)
327. 板部敏和(電波研)・藤原玄夫・広野求和(九大・理)・五十嵐隆(電波研): Fuego 以後の成層圏エアロゾルの減衰率について
328. 長谷部文雄(京大・理): オゾン全量とその変動のグローバルな解析
329. 小川利紘・鈴木勝久・柴崎和夫(東大・理): 対流圏・成層圏 NO₂ の分光測定
330. 村松久史・広田道夫・牧野行雄(気研): 成層圏汚染—オゾン層の破壊—に関する研究(1) 関東地方上空におけるフロン-11, -12 および亜酸化窒素の濃度

大会第2日(11月15日)9時00分~12時30分

第1会場 総観気象 座長 野口和則

128. 白井恒雄(小名浜測): 小名浜の最高気温予想(4, 5月)
129. 富野重夫(八戸測): 八戸沖の海霧予報図の検討
130. 田頭正広(仙台管区): 三陸沖の風と波の基礎調査
131. 春日井哲吾・川添信房(福島地台): 6L-FLM の地上低気中心示度の修正について
132. 青木 孝(気研・予報): 北東気流による悪天の判別解析による客観予報
133. 昆 幸雄(盛岡地台)・渡辺象吉・鈴木勝夫(仙台管区): 北偏高気圧下における東北地方の天気(第2報)
134. 新関競三(仙台航測): 仙台・東京間の気象慣熟飛行で見られた房総沖低気圧北西方の雲について
135. 佐藤善三郎(山形地台): 北西季節風時における山形県の天気分布
136. 竹内衛夫・内山徳栄(気研・予報研): しぐれの際の総観解析
137. 穂積邦彦・孫野長治(北大・理): 気象衛星による低気圧併合の立体構造の解析
138. 小沢 正・内山良子(気研・予報): 日降雪量の統計的, 総観的研究(II)
139. 原田 朗(気研・応用): 都市化・工業化の降水量・雷の発生に及ぼす影響の予備調査
140. 大井正一(埼玉大): 成層圏天気図の解析(30)一

月の暖寒冬

第2会場 大気汚染 座長 藤田敏夫

223. 千秋鋭夫(電力中研): 季節修正係数を考慮した環境濃度の統計解析
224. 藤田敏夫(気研・予報): 二酸化窒素の簡易測定による測定点の代表性について
225. 前田 泉・山根利雄・田尻 実・佐藤克己・石井邦彦・藤沢甲子雄・石田立夫(岡山環境センター)・坂本二郎(岡山県庁): 大気安定度と NO_x 濃度についての検討
226. 栗田秀実・佐々木一敏・内田英夫(長野県・衛公研): 地面へのオゾンの沈着量の空力法による測定
227. 前田 泉・小川和夫・池田正宣・田尻 実・佐藤克己・藤沢甲子雄(岡山環境センター): オキシダント濃度の予測手法に関する検討(1) —特に気圧傾度を中心として—
228. 四方 浩(電力中研): 非都市域における高濃度オキシダントの解析
229. 新谷光三(日本気象協会中央本部): O_x の上限値を用いた濃度予測法について
230. 広瀬元孝・本多君子(気研・予報): 大気汚染濃度の季節変化
231. 石崎健二(北大・工): 二点写真法による煙の観測

232. 岩本智之(京大・原子炉): 浮力のないときの plume rise
233. 川上美代子(東大・宇宙研)・坂上治郎(お茶大): 地上源から放出された物質の拡散と風速との関係について(風洞実験)
234. 横山長之・水野建樹(公資研)・安楽岡顕(数理計画): 大気境界層中での煙の鉛直拡散幅(第1報)

第3会場 大気化学・大気電気・雲物理

座長 池 辺 幸 正

331. 池辺幸正・相京勝則(名大・工): 降水の放射能(短寿命 R_n 娘核種)の測定
332. 三宅泰雄(地球化学研究協会)・川村 清(気研・化学)・島田利夫・重原好次(気象庁・海洋)・葛城幸雄(気研・化学): 東京における降水のトリチウム濃度
333. 三宅泰雄(地球化学研究協会)・葛城幸雄(気研・地球化学): 核実験の行われた季節と ^{90}Sr 降下
334. 孫野長治(北大・理)・坂本洋和(赤平西高校)・遠藤辰雄・谷口 恭(北大・理): 冬の雷雲の電氣的構造について(その3)

335. 谷口 恭・孫野長治(北大・理): ゾンデによる冬の雷雲中の電荷と雪結晶の観測
336. 藤吉康志(名大・水圏研)・高杉年且・後町幸雄(京大・防災研)・武田喬男(名大・水圏研): 層状性降水雲のレーダーエコー構造と電氣的特性
337. 菊地勝弘・上田 博・高橋康哉(北大・理)・稲津和雄(日本電子科学会): 北陸における冬期の降水粒子の大気電気観測(その1. 宇ノ気での観測)
338. 遠藤辰雄(北大・理)・坂本洋和(赤平西高校)・谷口 恭(北大・理): 冬期北陸における雷雲の下での大気電気地上観測
339. 遠藤辰雄(北大・理): 大気地上電位傾度と降水電荷のミラーイメージ効果についての一考察
340. 織笠桂太郎・太田圭一(室蘭工大): 地吹雪と風塵による電場の極性を支配する物理的效果について
341. 織笠桂太郎・片山 誠・河合秀直(室蘭工大): 冬期積乱雲・雷雲下の地表電場を支配する一つの要素について
342. 松尾敬世・佐粧純男(気研・物理): 円錐アラレの粒径と塩濃度

大会第3日(11月16日) 9時00分~12時30分

第1会場 境界層

座長 文 字 信 貴

141. 近藤純正(東北大・理): 積雪面上と内部における熱と物質輸送のパラメタリゼーション
142. 小林博和(電中研): 顕熱輸送量の評価時間について
143. 井上君夫・内嶋善兵衛(農技研・気象科): 水稻群落内の乱流特性(II)
144. 土屋 巖・白井邦彦(国立公害研・環境情報): 霞ヶ浦の湖面蒸発量の算定について(1)
145. 安田延壽・戸矢時義(気研・応用): 乱流の高次相関量の観測値と高次相関モデル
146. 花房龍男・大塚 伸・藤谷徳之助(気研・物理): 風速および気温の変動量の分布の安定度による変化について
147. 白澤邦男(北大・低温研・海洋): 流水野におよび風の応力測定について
148. 小林俊一(北大・低温研): 積雪面上の冷氣層の流れ
149. 大塚 伸・花房龍男・藤谷徳之助(気研・物理):

乱流エネルギー収支の高度分布の観測

150. 塩谷正雄(日大・生産工)・大井 淳(日大大学院): 鉛直方向2点間の空間相関係数
151. 安達隆史(日本気象協会・研究所): 安定状態における微風時の拡散モデル(微風時大気拡散の研究II)
152. 内藤玄一(防災センター)・吉田博信(横浜国大): 接地境界層における乱流の長周期変動
153. 山本 晋・横山長之・蒲生 稔(公資研): タワーによる大気境界層の観測—早朝から日中にかけての接地安定層解消・混合層形成過程について—

第2会場 中小規模現象

座長 吉 崎 正 憲

235. 二瓶邦夫(青森地台): AMeDAS 資料の利用について(昭和53年2月23日~24日のメソ低気圧について)
236. 菊地 陞(秋田地台): 秋田県における雨の降り始めの時間について(アメダス利用 第2報)
237. 秋田地台技術課 レーダー班, 講演者 斉藤 寛

- (秋田地台): エコー強度とアメダス雨量との関係について(レーダー協同調査中間報告)
238. 吉住禎夫(気研・予報): 梅雨前線上の小低気圧の暖域内の強雨
239. 秋山孝子(気研・予報): 中間規模擾乱の成層状態
240. 二宮洸三(気象庁・電計): 豪雨域の成層状態の観測事実
241. 植村八郎(気象庁・予報): 気象衛星雲画像と降雨域について
242. 今 久(北大・理): ステレオ写真法によって観測された晴天積雲と数値計算の比較
243. 榊原 均(気研・予報): 総観場から強い積雲対流域を推定する方法
244. 二宮洸三(気象庁・電計): 北半球数値予報モデルにおける梅雨前線帯
245. 内田英治(気研・予報): V字型雲パタンと日本海側の大雪
246. 村松照男(気象衛星センター・解析): GMS で捕らえた冬期日本海の渦状じょう乱の発生から消滅
247. 元木敏博(札幌管区・予報): 啓風丸の観測期間中に発生した大雪の解析(1978年2月3日の例)
248. 中島憲三・牛来 充・佐々木吉雄(盛岡地台): 岩手県北部の大雨(大雪)の機構について(第1報)
344. 梶川正弘(秋田大・教育): 紡錘状雲内部の密度分布と落下姿勢の安定性
345. 八木鶴平・清野 豁(国立防災センター): 長岡における降雪粒子の粒度分布の観測
346. 藤原美幸・柳瀬利子(気研・台風): 下層雲による増雨効果のある場合の雨滴分布に関する考察
347. 榊原 均(気研・予報): 大きい時間増分を用いた過飽和度変化の求め方
348. 石原正仁(気研・台風, 前石垣島地台)・田中豊頭(気研・物理): 石垣島における氷晶核の濃度変動について
349. 北出寿江(気研・応用): 氷晶核濃度の変化について(I) 一季節変化と日変化一
350. 田中豊頭(気研・物理): 有珠火山灰の氷晶核化作用
351. 石坂 佑・岡田菊夫・大谷 健・小野 晃・武田喬男(名大・水圏研): 名古屋およびその周辺域における雲核の航空機観測
352. 桜井兼市(北教大・旭川): 霧核上への凝結及びその水滴の凍結実験
353. 上田 博(国立防災センター)・菊地勝弘(北大・理): 雪結晶上での微水滴の凍結実験
354. 権田武彦・山崎利夫・大沢綱一郎(東理大・理工): レプリカ液による氷晶の変形について
355. 古川義純・小林禎作(北大・低温研): 多結晶雪結晶の生成(I) —CSL理論の適用
356. 古川義純・小林禎作(北大・低温研): 多結晶雪結晶の生成(II) —交差角枝型結晶の成長機構—

第3会場 雲物理

座長 桜井兼市

343. 佐粧純男・松尾敬世(気研・物理): 雪片の質量・断面積と落下速度との関係について

大会第3日(11月16日) 13時30分~17時00分

第1会場 境界層

座長 近藤純正

154. 森 征洋(香川大・教)・光田 寧(京大・防災研): 上空風速と地表風速の変動成分の統計的対応について
155. 花房龍男・藤谷徳之助(気研・物理): 運動量輸送量の高度変化について(II)
156. 森 俊秀(東海大・物理)・蒲生 稔(公資研): 混合層における比湿の変化
157. 横山長之・蒲生 稔・山本 晋(公資研): 大気境界層中の乱流のスケールについて
158. 藤田慎一・千秋鋭夫(電力中研): 放射測定による大気境界層の熱的安定度のモニター
159. 山岸米二郎(気象庁・電計): 微細格子モデルの試み(I) 境界層パラメタリゼーションの検討
160. 安田延壽(気研・応用): 大気境界層の乱流シミュレーション(第2報)
161. 田中 浩(名大・水研): 夜間ジェット形成とエクマン・パンピング
162. 板宮憲一(朝日科技研)・島貫 陸(東京学芸大)・木村富士男(気研): 温度傾度を用いた1000mまでの風の推定
163. 蒲生 稔・山本 晋・横山良之・吉門 洋(公資研): 海陸2境界面上に発達する内部境界層の飛行機観測(その7)

164. 藤田敏夫(気研・予報)：関東平野における粗度係数の空間分布
165. 植田洋匡・光本茂記(国立公害研)：藤田敏夫・花房龍男・藤谷徳之助・大塚伸(気研)：大気境界層内の乱流拡散数におよぼす浮力効果一熱の乱流拡散係数について一
166. 加藤真規子(お茶大・理)：乱流拡散に及ぼす温度成層の影響(Ⅱ)
167. 菊地時夫(北大低温研)：地ふぶきの風洞実験(Ⅱ)

第2会場 中小規模現象・台風・熱帯

座長 丸山健人

249. 早川誠而・坂上務・元田雄四郎(九大・農)：対流性降雨の立体解析例
250. 村松照男(気象衛星センター・解析)：寒冷前線に先行するCbラインの構造とそれに伴う severe storm —1978年2月28日地下鉄転覆事故に関連して一
251. 宮沢清治・市川清見・中鉢幸悦(気象庁・予報)：近年日本付近に発生したたつ巻について(付, 昭和53年2月28日夜, 東京湾沿いに発生したたつ巻)
252. 光田寧・文字信貴(京大・防災研)・西岡淳一(京大・理)・岩谷祥美(日大・生産工)：1978年2月28日の東京における竜巻について
253. 菅原吉夫(仙台管区)：台風7711号のレーダーエコーについて
254. 柳沢善次(気研・台風)：台風降雨帯に伴う豪雨の解析(Ⅱ)
255. 櫃間道夫(気象庁・予報)：台風進路の変化に先行して見られた二, 三の雲パタン(序報)
256. 新田 勅(東大・理)：雲の mass flux の変動と, 降水量および気象衛星の輝度値との対応
257. 中沢哲夫(東大・理)：夏期西太平洋熱帯対流圏偏東波動の風のスペクトル解析
258. 丸山健人・常岡好枝(気研・予報)：インド洋上空の上部対流圏偏東風と成層圏赤道波
259. 光田 寧(京大・防災研)・藤井 健(京都産業大・教養)：改良された標準計画台風(1)一気圧場の解析結果の統計一
260. 落合弘明(鳥羽商船高専)：LANDSAT および航空機による中部地方の積雪調査

第3会場 測器

座長 青柳二郎

357. 浅利英吉(東海大・札幌)：降水粒子のマイクロ波反射断面積とレーダ観測最適波長の評価
358. 浅利英吉(東海大・札幌)：天気に関連して生ずる気象雑音電波の観測と気象予測への利用について(2)
359. 高橋延男(気研・衛星)：3成分型風速計の試作
360. 阿部友川郎(東理大・理)・長馬善行(防衛庁・第3研)・矢内秋生(目白短大・生活科学)：風による振動系の応答一矢羽根式風向計の特性について一
361. 伊藤芳樹・光田 寧(京大・防災研)：sodar による大気境界層の遠隔測定
362. 林 正康・横山長之(公資研)・小堀泰宏(海上電機)・花房龍男(気研)：ソーダによる大気境界層の観測 その4.
363. 横田良夫(気研)：音響レーダによる測風試験
364. 清水 浩・笹野泰弘・竹内延夫・植田洋匡・安岡善文・山崎哲夫・松戸 修・奥田典夫(国立公害研)：レーザー・レーダーを用いた空間相関法による風向・風速の測定法の開発
365. 木村忠志(防災センター・雪害研)：積雪の深さ計による降雪の検出
366. 阿部勝宏(気象衛星センター)：静止衛星「GMS」の赤外放射データによる海面水温算出
367. 柴田清孝(函館海洋)：レーダーによる地上の降雨強度の推定について
368. 柴田清孝(函館海洋)：LOG-AMP 出力のレーダー受信信号について
369. 雨柳二郎(気研・気象衛星)：デジタルレーダ信号処理装置の評価試験について